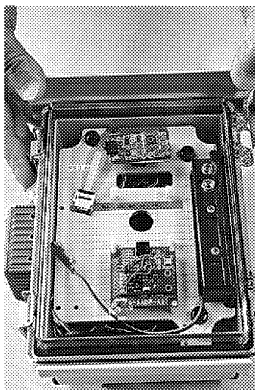
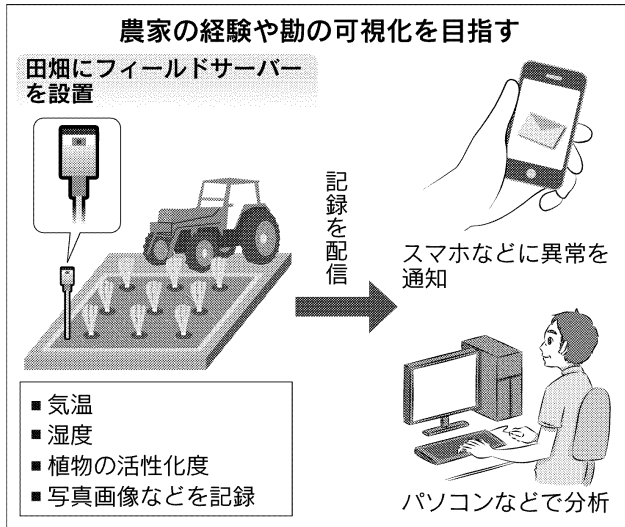


新潟大、農業法人と実験



新潟大学などが田畑に設置する「フィールドサーバー」

最適な条件 数値で把握

フィールドサーバーは1台当たり数十万円する製品が中心で、国内での導入例は限られる。新潟大は今回の実験を通じて

「NDVI」と呼ばれる植物の元気の度合いを示す数値を1時間に1回程度記録する。コメの食味低下につながる高温障害や病気が発生しやすい条件を分析する。

サーバーに通信機能を持たせ、異常の発生時に農家のパソコンやスマートフォンなどに通知する機能も盛り込む予定だ。

イネの生育、IoTで監視

新潟大学は農業生産法人のカガヤキ農園（新潟市江南区）と協力し、イネの生育をIoT（情報技術）機器で監視する実証実験を8月中旬に始める。気温や日照などを随時計測・記録し、生育に最適な条件を数値で把握する。農家の経験や勤に頼っていた水田の管理ノウハウを見える化し、新規就農者の支援などに役立てる。

新潟大学農学部の野中昌法教授らは8月中旬に、カガヤキ農園の水田内にフィールドサーバーと呼ばれる計測器を設置する。フィールドサーバー

は1辺20〜25メートル程度でカメラやセンサーを搭載している。屋外でも動くように防水対応で、電池で約半年間稼働する。気温、湿度、地中の温度、日照時間などを数分おきに記録する。

可視光以外の光を計測できる特殊なカメラも搭載し、通常の写真以外に「NDVI」と呼ばれる植物の元気の度合いを示す数値を1時間に1回程度記録する。コメの食味低下につながる高温障害や病気が発生しやすい条件を分析する。

サーバーに通信機能を持たせ、異常の発生時に農家のパソコンやスマートフォンなどに通知する機能も盛り込む予定だ。

フィールドサーバーは1台当たり数十万円する製品が中心で、国内での導入例は限られる。新潟大は今回の実験を通じて

「数値化がされていない」（野中教授）。フィールドサーバー導入で、作物の栽培は農家の経験や勤に頼ることが多く

「数値化がされていない」（野中教授）。フィールドサーバー導入で、作物の栽培は農家の経験や勤に頼ることが多く

「数値化がされていない」（野中教授）。フィールドサーバー導入で、作物の栽培は農家の経験や勤に頼ることが多く